

第2回 就労選択支援従事者養成研修の標準プログラム検討委員会  
会議次第

令和6年1月18日（木曜日）  
13:00～15:00  
ハイブリッド

1. 出席者紹介

2. 就労選択支援に関する情報提供

3. 協議：「標準カリキュラム案について」

4. 協議：「研修の方式などについて」

5. その他

委員会

	氏名	所属	出欠
1	倉知 延章	九州産業大学人間科学部 教授	対面 (旅費)
2	八重田 淳	筑波大学大学院 人間総合科学学術院 教授	オンライン
3	本名 靖	本庄ひまわり福祉会 常務理事	オンライン
4	小澤 啓洋	社会福祉法人光明会明朗塾／就職するなら明朗アカデミ 常務理事	対面 (旅費)
5	酒井 京子	大阪市職業リハビリテーションセンター 所長	対面 (旅費)
6	酒井 大介	社会福祉法人加島友愛会 理事長	対面 (旅費)
7	井口 修一	(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構 障害者職業総合センター研究部門 特別研究員	オンライン (謝金辞退)
8	若林 功	常磐大学人間科学部 准教授	オンライン
9	前原 和明	秋田大学教育文化学部 教授	対面 (旅費)

事務局

	氏名	所属	出欠
	山口 明乙香	高松大学 教授	オンライン
	縄岡 好晴	明星大学 准教授	オンライン
	西尾 香織	帝京平成大学 助教	—
	後藤 由紀子	筑波技術大学 助教	対面
	野崎 智仁	国際医療福祉大学 講師	対面
	藤本 優	大妻女子大学 助教	オンライン

オブザーバー

	佐藤 大作	厚生労働省社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 就労支援専門官	オンライン
	鈴木 大樹	厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 就労選択支援専門官	オンライン

## 就労選択支援従事者養成研修（案）

### 【研修の目的】

就労選択支援の理念を学ぶとともに、業務に必要となる就労アセスメントの手法をはじめとして、利用者のニーズ把握、支援計画を用いた関係機関との連携に関する基本的なノウハウを習得する。

### 【対象者】

新任の就労選択支援従事者（なお、本就労選択支援従事者養成研修の受講要件として、「基礎的研修」を受講した者とする）

### 【カリキュラム骨子（案）】

#### （１）就労選択支援の理念について理解する

- ・就労選択支援の概要と目的：就労選択支援の趣旨について理解し、趣旨に沿った支援を提供できることを目指す
- ・働くことの意義：人にとって働くことの意義について知り、就労選択支援の実施に活かす

#### （２）就労アセスメントの目的と手法

- ・アセスメントの目的：就労支援において、アセスメントを実施する目的について理解する
- ・就労アセスメントの手法：就労アセスメントの手法について理解する

#### （３）ニーズアセスメントの手法

- ・ニーズ把握の目的と視点：障害者の多様な支援ニーズについて理解し、ニーズ把握のための視点について学ぶ
- ・職業カウンセリングの方法：対象者との信頼関係の構築、聞き取りと支援に向けたコミュニケーション手法について学ぶ

#### （４）就労アセスメントの具体的活用

- ・JEED「就労アセスメントシート」の演習（解説及び作成）：  
就労アセスメントシートを用いて、就労アセスメントにおけるアセスメント項目の把握、アセスメントの実施、アセスメントの説明などの手法を具体的に学ぶ

#### （５）アセスメント結果の整理と活用

- ・アセスメント結果表の書き方
- ・支援計画の策定

#### （６）関係機関との連携

- ・社会資源と地域アセスメント：社会資源について学び、地域の社会資源について分析する
- ・ケース会議の方法：ケース会議の目的を知り、日程調整及び実施の手続き等について学ぶ

## 【カリキュラムイメージ】

(案1：1日版)

科目	内容	ポイント	形態	時間
1 就労選択支援の理念と就労アセスメント	①就労選択支援の概要と目的 ②アセスメントの目的 ③就労アセスメントの手法	・働くことの意義 ・就労選択支援の制度 ・就労選択支援の成立背景 ・就労アセスメントの目的 ・就労アセスメントの手法	講義	1
2 ニーズアセスメントと多機関連携	①ニーズ把握の目的と視点 ②職業カウンセリングの方法 ③関係機関との連携	・ニーズの定義 ・ニーズ把握の方法 ・カウンセリング技法 ・関係機関との連携	講義	1
3 就労アセスメントの実施方法	①「就労アセスメントシート」の解説 ②「就労アセスメントシート」の作成演習 ③「就労アセスメントシート」の結果表作成 ④「就労アセスメントシート」を用いた会議	・「就労アセスメント」講義 ・事例に基づく作成、結果表作成、会議の演習	講義 演習	5
計				7

1日目	
8:50～9:50	就労選択支援の理念と就労アセスメント
10	休憩
10:00～11:00	ニーズアセスメントと多機関連携
10	休憩
11:10～12:10	就労アセスメントの実施方法（前）
50	休憩
13:00～15:00	就労アセスメントの実施方法（中）
10	休憩
15:10～17:10	就労アセスメントの実施方法（後）

(案2：2日版)

科目	内容	形態	時間
1 就労選択支援の理念	①働くことの意義 ②就労選択支援の概要と目的	講義	1
2 就労アセスメントの目的と手法	①アセスメントの目的 ②就労アセスメントの手法	講義	1. 5
3 ニーズアセスメントの手法	①ニーズ把握の目的と視点 ②職業カウンセリングの方法	講義	1. 5
4 就労アセスメントの具体的活用	①JEED「就労アセスメントシート」の解説講義 ②JEED「就労アセスメントシート」の作成演習	講義 演習	3
5 アセスメント結果の整理と活用	①アセスメント結果表の書き方 ②支援計画の策定	講義 演習	2
6 関係機関との連携	①地域の社会資源と役割 ②ケース会議の方法	講義	1
計			10

1日目		2日目	
9：30～10：30	就労選択支援の理念	9：30～11：00	ニーズアセスメントの手法
10	休憩	10	休憩
10：40～12：10	就労アセスメントの目的と手法	11：10～12：10	関係機関との連携
60	休憩	60	休憩
13：10～14：40	就労アセスメントの具体的活用（前半）	13：10～15：10	アセスメント結果の整理と活用
20	休憩		
15：00～16：30	就労アセスメントの具体的活用（後半）		

【参考】基礎的研修カリキュラムイメージ (案)

No	科目	形態	内容	時間(分)の目安	就業支援基礎研修からの主な変更内容等
①	就労支援の理念・目的、障害者雇用の現状と障害者雇用・福祉施策	講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>○就労支援の理念と目的（支援者としての共通した目的、福祉的就労と一般就労）</li> <li>○障害者福祉施策（就労系障害福祉サービス）の体系や概要</li> <li>○国の障害者雇用施策の体系や各種制度</li> <li>○国の障害者雇用の状況</li> <li>○雇用施策と福祉施策との連携（福祉・教育・医療から雇用への流れ）</li> <li>○就労支援の基本的な考え方（働くことの意義の理解、就労支援の視点、支援者の役割と資質、企業の視点の理解）</li> </ul>	80	<ul style="list-style-type: none"> <li>○職場適応援助者養成研修（以下「養成研修」という。）の導入の科目「職業リハビリテーションの理念」の内容を追加。</li> <li>○「障害者福祉施策（就労系障害福祉サービス）の体系や概要」において、障害者総合支援法及び就労系障害福祉サービスの概要について解説。</li> <li>○各項目の内容を精査し、時間を短縮。</li> </ul>
②	就労支援のプロセスⅠ（インテーク～職業準備性の向上のための支援）	講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>○就労支援のプロセスと手法（支援の基本的姿勢、アセスメントから一般就労への移行の過程）</li> <li>○インテーク、アセスメント、プランニング</li> <li>○職業準備性の考え方、職業準備性の向上のための支援</li> </ul>	50	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「就労支援の基本的な考え方」は科目①に移動。</li> <li>○「演習」は新規科目⑩「アセスメントの基礎」に移動。</li> <li>○一部の内容（支援事例）を削除し、時間を短縮。</li> </ul>
③	就労支援のプロセスⅡ（求職活動支援～定着支援）	講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>○就職のための支援（ハローワークの活用、企業開拓、企業へのアプローチ等）</li> <li>○職場定着・雇用継続のための支援（障害者・企業双方への支援、実施方法、留意事項、福祉施策の活用や連携）</li> <li>○加齢等に伴う雇用から福祉への移行</li> </ul>	50	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「福祉施策の活用や連携」において、就労系福祉サービスに加え、グループホームなどの福祉サービスについても解説。</li> <li>○「加齢等に伴う雇用から福祉への移行」において、雇用から福祉または福祉から雇用への行き来について解説。</li> <li>○【意見交換】は新規科目⑩「地域における就労支援の取組」に移動。</li> <li>○一部の内容（支援事例）を削除し、時間を短縮。</li> </ul>
④	就労支援機関の役割と連携	講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>○就労支援を実施している機関の役割と業務内容（ハローワーク、地域障害者職業センター、障害者就業・生活支援センター、就労系障害福祉サービス（就労移行支援事業所等）、医療機関、教育機関等）</li> <li>○就労支援ネットワークについて（ネットワークの重要性、ネットワークの構造・構築の手順等）</li> </ul>	60	<ul style="list-style-type: none"> <li>○就労系福祉サービスや医療機関、教育機関についても、その役割や業務内容を具体的に解説。</li> <li>○【意見交換】は新規科目⑩「地域における就労支援の取組」に移動。</li> <li>○一部の内容（支援事例）を削除し、時間を短縮。</li> </ul>
⑤	障害特性と職業的課題Ⅰ（身体障害、高次脳機能障害、難病）	講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身体障害、高次脳機能障害・難病の職業的課題、特性に即した支援方法、留意事項、合理的配慮の事例</li> </ul>	60	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「難病」を追加し、取り扱う範囲を拡大。</li> <li>○ICTツールや就労支援機器の活用について、障害特性に即して解説。</li> </ul>
⑥	障害特性と職業的課題Ⅱ（知的障害、発達障害）	講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>○知的障害、発達障害の職業的課題、特性に即した支援方法、留意事項、合理的配慮の事例</li> </ul>	60	<ul style="list-style-type: none"> <li>※養成研修、障害者就業・生活支援センター就業支援担当者研修（以下「担当者研修」という。）においては、本科目の内容を踏まえ、より高度な専門性を要するケースの対応方法などについて解説。</li> </ul>
⑦	障害特性と職業的課題Ⅲ（精神障害）	講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>○精神障害の職業的課題、特性に即した支援方法、留意事項、合理的配慮の事例</li> </ul>	60	
⑧	労働関係法規の基礎知識	講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>○労働契約上の留意点（労働契約の締結、労働時間、休憩、休日、賃金、解雇等）</li> <li>○法律上企業等に加入が義務づけられている労働保険・社会保険</li> </ul>	60	
⑨	企業に対する支援の基礎	講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>○企業で働くとは</li> <li>○企業を支援することの重要性</li> <li>○障害者雇用をめぐる企業を取り巻く状況（障害者の差別禁止・合理的配慮の提供義務等）</li> <li>○企業支援のプロセス及び支援手法（企業情報・ニーズの把握、企業内での理解促進への支援、職務の切り出し、地域資源の活用）</li> <li>○企業支援の留意点（企業との信頼関係の構築、企業担当者のメンタルヘルスに関する支援等）</li> </ul>	60	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新規科目として設定。</li> <li>○企業支援に必要な心構えや支援のプロセス、基本的なスキルを解説。</li> <li>※養成研修、担当者研修においては、本科目の内容を踏まえ、職務分析や職務創出などのより実践的な内容について解説。</li> </ul>

No	科目	形態	内容	時間(分)の目安	就業支援基礎研修からの主な変更内容等
⑩	ケースマネジメントと職場定着のための生活支援・家族支援	講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>○就労支援におけるケースマネジメントの重要性</li> <li>○生活支援・家族支援の進め方（支援方法、対応例）</li> <li>○生活支援・家族支援における企業と支援機関の役割分担と連携</li> <li>○ライフステージや生活の変化に対応した支援の必要性</li> </ul>	60	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新規科目として、養成研修の科目「ケースマネジメントと職場定着のための生活支援・家族支援」の内容を追加。</li> <li>○福祉サービスの活用を含む、職場定着に向けた生活支援・家族支援について解説。</li> </ul>
⑪	アセスメントの基礎	講義 演習	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○相談を行う上での基本的態度や傾聴等の相談技法等</li> <li>○アセスメントの目的と心構え</li> <li>○実施方法と留意事項</li> <li>○結果の分析ポイントと活用の仕方</li> </ul> <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○グループワーク。</li> <li>○モデル事例に即して、アセスメントにおける対象者への聞き取りや観察の内容について検討。</li> <li>また、把握した情報に基づき、対象者の就労に向けた課題や支援のポイント・方法について整理。</li> </ul>	100	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新規科目として設定。</li> <li>※養成研修においては、本科目の内容を踏まえ、アセスメントの結果を踏まえた支援計画の作成方法などについて解説。</li> </ul>
⑫	企業における障害者雇用の実際	講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>○企業の障害者雇用の担当者からの講義。</li> <li>・企業における障害者雇用の考え方や実際（障害者である社員が従事している職務の内容、雇用管理の方法、職場内支援体制、合理的配慮の内容等）。</li> <li>・企業が求める人材（採用時に重視すること、雇用継続に向けて重視すること等）。</li> <li>・支援者に求めること。</li> </ul>	60	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域における、企業の障害者雇用の実際について理解を深められるようにする。</li> <li>○合理的配慮の内容を追加するとともに、各項目の内容を精査することで、時間を短縮。</li> </ul>
⑬	地域における就労支援の取組	意見交換 事例検討	<p>【意見交換】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○グループワーク。</li> <li>①受講者の所属機関における各種支援の取組</li> <li>②関係機関との連携、ネットワークの活用状況</li> <li>・①②に関連するテーマについて意見交換。</li> </ul> <p>【ケーススタディ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○グループワーク。</li> <li>○モデル事例の内容に基づき、対象者や企業、家族への支援の内容や関係機関との連携などについて検討。</li> </ul>	90	<ul style="list-style-type: none"> <li>○旧科目「ケーススタディ」や意見交換を集約・統合し、新規科目として設定。</li> <li>○地域ネットワークの形成に向けた相互の交流・意見交換の機会にするとともに、事例検討を通じて就労支援の理解を深める。</li> <li>○地域における、社会資源やその活用の方法などについて理解を深める。</li> </ul>
⑭	オンライン形式での講義の振り返り	講義	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○オンライン形式の講義のポイントの復習。</li> <li>○オンライン形式の講義の質疑応答。</li> </ul>	50	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新規科目として設定。</li> </ul>

合計時間の目安 900分

【その他の検討事項】

・開催方式

対面、オンライン、オンデマンド、ハイブリッド

→それぞれのメリットとデメリットがあるかどうか？

演習があること、研修の創設ということを考えると最初は対面からか？

・実施主体

中央集合研修、集合から地方開催